

関係各位

高知県病害虫防除所長

令和3年度病害虫発生予察技術情報（第6号）

県内におけるトビイロウンカの発生状況について

7月中・下旬に行った巡回調査において、県東部、中央部、中西部の早期稲でトビイロウンカの発生が確認されました。発生程度は低いものの、過去10年間において、7月の巡回調査における本虫の発生はほとんど認められておらず、発生面積は平年の約8.8倍となっています（表1）。

また、隣県の徳島県における予察灯調査では、平年に比べかなり早い5月中旬に誘殺を確認し、その後も継続して誘殺が見られています。

普通期稲においては本虫の発生は確認されていないものの、例年に比べて早い時期から県内の広域に飛来した可能性があります。

向こう1か月の気象予報では晴れの日が多く、気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから、発生は増加すると考えられます。本虫が高密度となると坪枯れ被害を生じるため、県内の水稻（普通期稲）栽培地域においてはトビイロウンカの発生動向に十分注意するとともに、下記の防除対策について指導の徹底をお願いします。

記

「防除対策」

- 1) トビイロウンカはほ場内で局所的に発生するため、ほ場全体の見回りを徹底してください。また、成虫、幼虫ともに株元に寄生するため、株元を注意して観察してください。
- 2) 薬剤防除に当たっては、株元まで薬剤が到達するように散布してください。また、農薬使用基準の遵守及び周辺農作物等への飛散防止対策の徹底をお願いします。

表1 早期稲におけるトビイロウンカの発生面積

	本年発生面積 (ha)	平年発生面積 (ha)	作付面積 (ha)
東 部	6.7	1.8	670
中央部	7.1	0	3,551
中西部	2.0	0	691
西 部	0	0	1,448
県合計	15.8	1.8	6,360

注) 調査は7月中・下旬に行った。



写真1 トビイロウンカによる坪枯れ被害（令和元年9月）